



中学校 社会 公民分野

▶ 動画「学んでみよう!子どもの権利」>

活動名 グローバル社会と人権

「子どもの権利条約」について理解を深め、自分ごととして認識し、民主的・平和的な社会の形成者としての資質を養う。



学習活動

指導上の留意点

導入

展開

終末

子どもの権利条約はなぜつくられたのだろう？

- 「世界人権宣言」には「すべての人間は～」とあるのに、なぜ「子どもの権利条約」という、別の条約がつけられたのだろう？

📺 動画視聴

- 動画の内容で気になったことや、「子どもの権利」についての考え、紹介された事例などを書き出す。

※ワークシート①

- ワークシート①の内容を班で共有し合う。

- 📄 [子どもの権利条約一覧](#)を班で参照し、条約について調べながら考える。

※ワークシート②

- 班で共有した内容を全体に発表する。各班の発表について、各自の考えや思いをコメントする。

- 人権の課題は身近な自分たちの生活の中にもある一方、社会には弱い立場に立たされ、権利が同じようには守られていない人びとがいるという意識・視点から、今後どのような世界(社会)を共に作っていくべきか各自の意見をもつ。

“子ども”の権利を保障しようという条約の目的から、社会の中には弱い立場に置かれている人びとがいるということを、認識できるようにする。

- 出された意見を板書で共有する。1人1台端末を使う場合は、協働学習モード等で、他者の意見を参考にできるようにするとよい。

- 動画での事例だけでなく、自分たちの生活の中でも権利が保障されていることに気づくよう配慮する。このような条約が自分たちの日常に必要なだと気づくようにファシリテートを行う。

- 「子どもの権利条約」以外の人権条約についても触れ(女性の権利や障がい者の権利など)、さまざまな視点で社会の問題を知り、多面的・多角的な視点から考えることが重要であることを伝える。

板書計画例

国連の活動と条約

子どもの権利条約…
1989年11月20日に採択。
締結国・地域は196 日本…
こども基本法に取り入れられている。



子どもの人権だけでなく、その他の立場の人々の人権についても知り、考えていくことが大事なこと。
世界には権利が守られていない同世代の子どもがいる。

本時の問い

「子どもの権利条約はなぜつくられたのだろう？」

自分の意見を表すことは「権利」だから、ちゃんと周りの意見にも耳を傾けることが大事。
お互いの権利を意識して、
守りながら生活することが大切なんだ。

「あたりまえ」の生活は、実はあたりまえじゃない。

私たち一人ひとりに「権利」があるんだから、みんなが安心・安全な生活を送れる環境を考えていく必要がある。人ごとじゃなくて、自分たち自身のこと。

